



自然エネルギー財団  
RENEWABLE ENERGY INSTITUTE

## 2-B:地域と調和した再生可能エネルギーの発展

---

相川高信  
博士(農学)、上級研究員  
公益財団法人 自然エネルギー財団

- 風力とバイオマスを拡大するための障壁は何か？
- どのように拡大すればよいか？
- どのような段階を踏むことが必要か？ 地方自治体は、普及のためにどう貢献できるか？

## ■ 世界・ドイツでの位置付け

- PVとともに価格の安い基幹的電源に
- 前提条件(ゾーニング、建築コード、接続保障／等)

## ■ 日本での拡大のために

- 地域の利益(出資、地代)
- 自治体主導によるゾーニング
  - エネルギー自立のための計画(Avoid-mapではなく)
- 前提条件の整理(系統接続、環境アセスメント)

## ■ 世界・ドイツでの位置付け

- 価値の高いエネルギー源
- 多様なオプション(化石燃料代替、熱・CHP)
- ポテンシャルは、ほぼ使い尽くされている

## ■ 日本での拡大のために

- 地域の利益(化石燃料の代替、廃棄物の処理)
- 地域アライアンス(Learning by doing)
- 地域熱供給、CHP(将来のエネルギーシステムへの統合)

- 成功事例を創る・見せる
- 予見できる市場を創る (kW/年 × ●年)
- 計画を立てる
  - マクロな必要量
  - 具体的な導入箇所 (ゾーニング、熱需要調査)
- 総合的に、継続的に取り組む
  - まずは省エネ
  - 経済効果を見せる
- 地方から高い目標を掲げる